



## 1. 東京外国語大学国際日本研究センターの設立

### ○ 設立理念とその背景 2009年4月設立

「国内外における日本語学習者の多様化に対応した日本語教育・研究の効果的かつ総合的な推進に寄与する」⇒大学の特性。言語(日本語)を核。地域研究は言語と密接不可分。27言語・14地域

### ○ 時代の変化という磁場の中での「日本学」(日本研究)の自己革新への模索

### ○ 2000年代以降、日本の大学において「国際日本学」「国際日本研究」の名称をもつ組織が次々に設立

## 課題

- 言語と密接不可分な文化(文学を含む)・歴史そして社会にかかわる領域をどのように組み込んで行くのか。言語(日本語)と日本研究との架橋

3

国際日本  
研究センター

## 方針

- (1)日本語教育の方法や日本の文化・歴史・社会に関する研究分野にかかわる調査・研究。成果を教育面にも反映すると同時に、内外に発信
- (2)地域研究としての学際的日本研究。日本語と「日本学」(日本研究)を架橋するインターディシプリンを追究

⇒センターの部門構成(5部門)

専任教員、兼任教員 計24人(当初25人)  
+プロジェクトごとに連携研究員(学内教員)、  
特任研究員(海外を含む学外研究者)  
フェロー(大学院生)

4

国際日本  
研究センター

## 2. 国際日本研究センターの部門構成 その1

- 1). **国際日本語教育部門** 教員 5名(うち専任1名)(日本語教育・対照言語学・情報学)
  - 国内外の日本語教育研究機関における日本語教育の現状の調査・分析、学習者のニーズに応じた教育方法の研究・開発
- 2). **対照日本語部門** 教員5名(日本語学、中国語学、スペイン語学、ドイツ語学)
  - 日本語教育が実施されている海外諸地域の言語と日本語との対照研究推進
- 3). **社会言語部門** 教員5名(うち専任1名)(日本語学、日本語教育、日本語教育史、インドネシア語学、社会言語学)
  - 国内外で使用される日本語の多様性を調査・分析。日本語の動的な研究を推進。

5

国際日本  
研究センター

## 国際日本研究センターの部門構成 その2

- 4). **比較日本文化部門** 教員4名(歴史社会学・社会思想史、日本近現代史、社会教育学、植民地文学・文化)
  - 国際的(多角的視点・双方向的)視点からの日本文化・日本社会についての共同研究
- 5). **国際連携推進部門** 教員5名(うち専任1名)(西アジア史、日本思想史・文化史、ドイツ文学・思想、異文化間教育)
  - 海外諸機関及び研究・教育者間の情報交換と人的交流の促進(ネットワーク)

6

国際日本  
研究センター

### 3. 活動事例の紹介 その1

#### ○ 国際日本語教育部門

「アメリカにおける日本語教育—英語母語話者に対する日本語教授法」、定例研究会「言語研究と教育シリーズ」

国内外の高等教育機関(交流協定大学ほか)を対象に

「日本語教育事情調査」を実施(他部門も協力)

→結果をHPに公開 現在約70機関

⇒「本学に期待するもの」

[http://ngc2068.tufs.ac.jp/icjs/daiichi/?page\\_id=27](http://ngc2068.tufs.ac.jp/icjs/daiichi/?page_id=27)



#### ○ 対照日本語部門

定例研究会「外国語と母語との対照言語学的研究」

学生向け基本文献(中国語・朝鮮語・スペイン語・ドイツ語と日本語の対照言語学的研究)の書誌情報のリスト作成とそのデータベース化

7



### 活動事例の紹介 その2

#### ○ 社会言語部門 国内外で使われる「日本語」の動態 日本語の多様性(⇔規範性)

○奄美大島瀬戸内地区の方言伝承活動の調査

○講演会「台湾『宜蘭クレオール』について」「モバイル時代のコミュニケーションのゆくえ」「方言コスプレ」とはなにか」等、現代社会の言語状況を反映するテーマ。

○学生向け社会言語学基本文献のデータベース化

#### ○ 比較日本文化部門＋国際連携推進部門

○国際シンポジウム「宮澤賢治の作品におけるキリスト教的表象」、「戦前日本の対回教圏政策とトルコ」、「日中台のあいだの〈移動〉と〈応答〉～ひと、メディア、文学」

○ビデオ教材「日本語で、日本を、学ぶ」シリーズ作成

8



## 活動事例の紹介 その3 センター企画

### 〈国際シンポジウム〉

- ・2010年3月「世界の日本語・日本学～教育・研究の現状と課題～」
- ・2012年3月「国際日本学の構築に向けて」

### 〈夏季セミナー〉 2012年度～実施

- ・海外から講師を招聘。センター教員とともに公開セミナー開催
- ・2013年度 海外から大学院生を招き、本学を中心とした  
大学院生とワークショップ。単位化。
- ・2014年度 院生報告者47人  
(タイ・シンガポール・台湾・中国韓国・日本)



研究者・大学院生間の交流とネットワーク構築

9



## 当センターにおける台湾関連の事例

- 講演会、研究会等： 開催12回、講師・院生延べ27名
  - ・2010年10月「台湾『宜蘭クレオール』について」真田 信治氏（奈良大学）
  - ・2012年7月 夏季セミナー 蕭幸君氏（台湾東海大学）「くわれわれ」で語り得ぬもの—映画『セデック・バレ』の表象をめぐって」
  - ・2013年7月 夏季セミナー 陳明姿氏（台湾大学）台湾 「人間を助ける鬼」  
類型説話について—「今昔物語集」と中国の古代小説を中心として—
- 日本語教育事情調査： 7機関 <http://ngc2068.tufs.ac.jp/icjs/daiichi/>
  - ・元智大学 ・台湾大学（文学院日本語文学科）
  - ・東呉大学（日本語文学科） ・ 国立高雄第一科技大学（日本語学科）
  - ・中国文化大学（外国語学部日本語文学科） ・ 淡江大学
  - ・国立政治大学
- 報告書：〈紐帯としての日本語〉 <http://www.tufs.ac.jp/common/icjs/jp/1600.html>
  - ・「台湾在住の日台国際結婚家庭における日本語意識：世代間の相違を中心に」  
国際日本研究センター 谷口龍子
  - ・「日本統治期台湾に居住経験を持つ奄美出身者とそのことばについて」  
国際日本研究センター 高嶋朋子  
など

10



## おわりに

### ○国際日本研究センターの目標

「日本」が自明でないことがより鮮明化しつつある時代における日本語・日本研究のあり方への模索。学際的(インターディシプリン)かつ国際的に追及されるべき領域⇒新たな共同研究の創造

「外からの視点」「中からの視点」に止まらず、複数の視点や方法を相互に介入させ、交錯させることから見えてくるもの。「日本(日本語、日本文化・社会)とは何か」を意識化する手がかり(契機)となる企画。

11

国際日本  
研究

### ○言語(ことば)を核とした人文科学の横断的研究

言語及び地域横断可能な学際的アプローチ

例えば「翻訳」文化をめぐって

↑↓

国内外の研究交流ネットワーク

### ○「国際日本学入門」のテキスト作成

研究の教育面への還元(反映)

言語・文学・文化・歴史・社会の5分野

コンテンツ執筆者と日本語教育に関わる教員との協働。

12